

柴崎英子

絹の波

句集

柴崎英子さんは平成7年度から「沖」同人に列したのだが、
その前年、6年11月号の「沖作品」で

裁ち絹の波を立たせて白露かな

の句が新人賞予選句に入っているから、
著者にとっては思い入れの深い句なのであろう。

『絹の波』という句集名はこの句から採られたものと思う。

林 翔

蝶がもう飛んでみたよと試歩の父

壁鏡の揺れに手をやり余寒なほ

透
明
に
独
活
ゆ
で
進
路
き
ま
り
け
り

採
用
通
知
と
ど
く
連
翹
ど
つ
と
咲
き

優
し
さ
が
短
所
に
も
見
え
軒
菖
蒲

新
居
の
上
宥
め
て
細
き
竹
植
う
る

北へゆく雲の速さよ
帰省せず

子に甘き父を通せり
雲の峰

結論は急がずメロン四等分

裁ち絹の波を立たせて白露かな

重ね着の母に口止めなどはせず

日暮急がつちりスノーチェーン巻く

丈
伸
ば
す
氷
柱
ま
つ
た
く
風
落
ち
て

小
走
り
に
過
ぐ
寒
行
の
白
脚
絆

中山法華經寺

落慶の今この時を八重桜

灯の入りて裏山せまる薪能

相輪に月満ち来たり薪金

三番瀬かすめ綺羅なす夏燕

寒
行
の
声
濤
と
な
り
渦
と
な
り

林
翔先生
唐辛子句碑建立

桜
満
ち
あ
ふ
れ
て
い
ま
や
除
幕
の
碑

秋
気
澄
み
け
り
入
魂
の
師
の
碑
よ
り

能村登四郎先生 春ひとり句碑建立

三
師
句
碑
建
つ
芝
萌
え
の
力
か
な

市川学園句碑

林翔先生詩歌文学館賞受賞

肅肅と祝ぎの睡蓮ひらきけり

能村登四郎先生 羽咋句碑建立

師の碑建つ能登春光のみなぎりて

虹消えしあとの棒立ち師の訃報

朴落葉かさりと父の深病みす

もうどこにも父なし
櫛落葉して

父死後の大きく曲る
雪解川

花の雨会はねば母の老ゆるかな

嫁ぎし子の部屋に佇む夜の朧

生まれ来る子の名声にし福寿草

初孫誕生

万緑の中産声は男の子たり

職退きし静けさ風の雪柳

大花野こころに少し波欲しき

羽化の蟬反り身にいのち輝かす

三番瀬かすめ綺羅なす夏燕

退職願ひ出し夕焼に染まりけり

白露けふ母の襟あし切り揃へ

一度自分こはしてみよと鵬猛る

相輪に月満ち来たり薪金能

火
入
れ
待
つ
能
百
千
の
虫
の
音
に

月
し
ん
し
ん
と
小
面
に
見
つ
め
ら
る

月明の木橋は反りを強めけり

葉牡丹のむらさき緊むる朝の雨

木の芽吹く明るさ
嬰の固太り

襖替ふ嬰のくるりと逃げて春

白魚の水ともならず
売られけり

職退きし静けさ
風の雪柳

海苔あをく焙り師の忌の来りけり

著者略歴

柴崎英子（しばさき・ひでこ）

昭和16年7月26日 神奈川県生れ

昭和55年「沖」入会

平成7年「沖」同人

俳人協会会員

句集 ^{きぬ なみ} 絹の波

〈新女流俳句叢書6期〉

2008年1月25日 発行

著者 柴崎 英子

発行者 本阿弥秀雄

発行所 ^{ほんあみ} 本阿弥書店

東京都千代田区猿楽町2-1-8 三恵ビル 〒101-0064

電話 03(3294)7068 (代) 振替 00100-5-164430

印刷 日本ハイコム(株)

© Shibasaki Hideko ISBN978-4-7768-0401-7 (2170)

定価は函に表示してあります